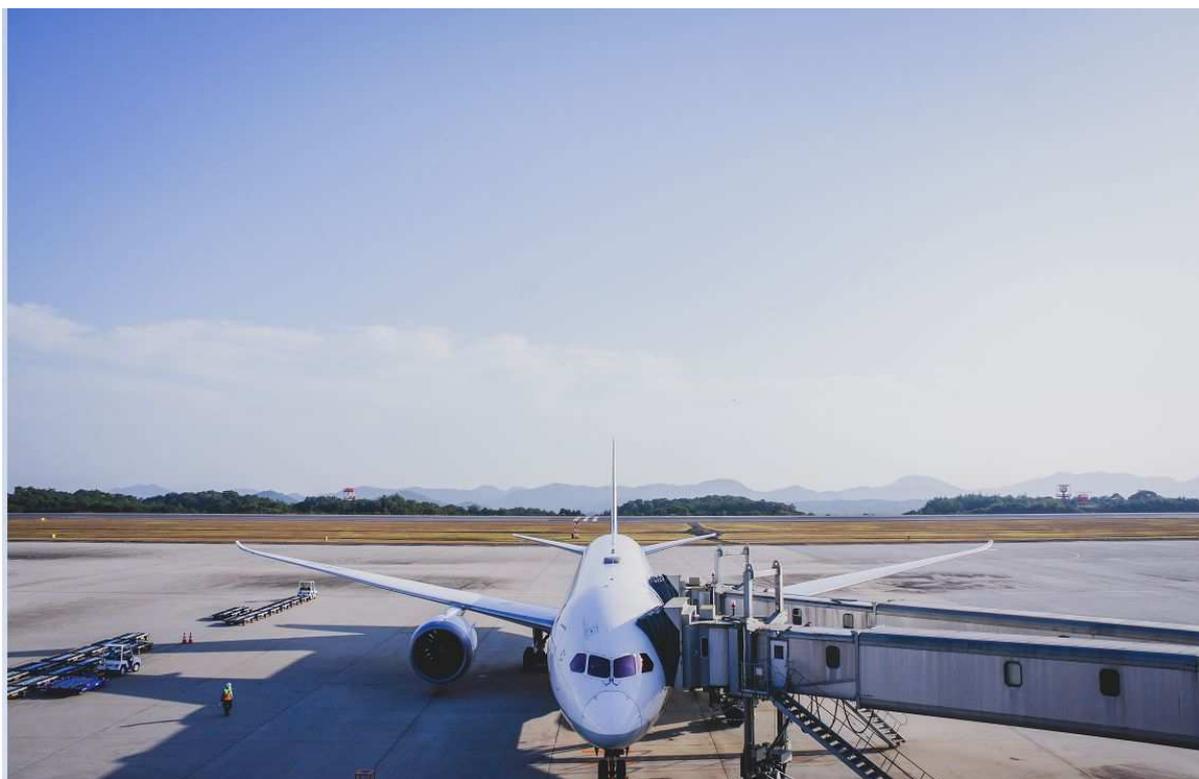


第5章 空 港



広島空港の展望デッキからの景色

1 広島空港の概要

(1) 広島空港の現状

広島空港は、3,000mの滑走路、9つのスポットを有するエプロンや最新鋭の設備とともに、31,000㎡の旅客ターミナルビル、3,900㎡の貨物ターミナル施設などを備えた中国・四国地方最大の空港である。

また、平成29年10月29日から、空港の運用時間が夜間1時間延長され、15時間（7：30～22：30）となっている。

国内定期路線は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度の旅客数は、コロナ前の対前々年度比36.5%と大幅な減少が続いている。また、国際定期路線は、令和2年3月下旬以降、全路線運休となっており、回復の見通しが立っていない。

今後は、令和3年7月から広島空港の運営を開始した広島国際空港（株）等と連携し、新型コロナウイルス感染症の回復状況を踏まえながら、中国・四国地方の拠点空港として、また、本県の新たな経済成長を支えるグローバルゲートウェイとして、引き続き利便性の向上や利用促進を図る。

広島空港の概要

設置管理者	国土交通大臣			
飛行場の種類	空港法第4条第1項第5号に掲げる空港			
供用開始日	平成5年10月29日（3,000m滑走路供用：平成13年1月25日）			
施設	告示年月日	平成12年12月28日（運輸省告示414号）		
	管理面積	1,948,484㎡		
	基本施設 （ターミナル拡張計画を含む。）	着陸帯	長さ	3,120m×幅 300m
		滑走路	長さ	3,000m×幅 60m
		誘導路	総延長	3,290m
エプロン		120,300㎡（サブターミナルを含む。）		
概要	航空灯火	進入灯, 進入角指示灯, 中心線灯, 滑走路灯, 誘導路灯, エプロン照明灯等		
	通信施設	遠隔空港対空通信施設, 飛行場情報放送業務施設		
	航空保安無線施設	ILS（計器着陸装置）, ASR（空港監視レーダー）, SSR（二次監視レーダー）, VOR/DME（超短波全方向無線標識装置/距離測定装置）		
	気象観測施設	滑走路視距離測定器, 風向風速観測装置, 雲高測定器等		
運用時間	15時間（利用時間：7時30分から22時30分まで）			

(2) 主な施設整備等の状況（国土交通省事業）

時 期	内 容	目 的
平成 20 年 6 月	計器着陸施設の高度化（CAT-Ⅲa）	視界不良による欠航，ダイバート（目的外空港への着陸），遅延等の改善
平成 21 年 7 月	計器着陸施設の高度化（CAT-Ⅲb）	
令和 3 年 4 月以降	滑走路端安全区域（RESA）の整備	航空機がオーバーラン及びアンダーシュートした場合に航空機の損傷を軽減

(3) アクセスの充実

広島空港へのアクセスとしては，広島（広島駅新幹線口・広島バスセンター），呉，三原，福山，西条からの空港アクセスバス，JR白市駅からの空港連絡バス，竹原，尾道からの乗合タクシーの計 9 路線が運行されている（令和 4 年 5 月 1 日現在，西条，尾道からのバス等は運休）。

空港アクセスバス等の利便性向上については，平成 28 年 1 月に JR 白市駅のバリアフリー化（跨線橋の架替，エレベーター設置等），平成 29 年度には，JR 白市駅・広島空港間の主要地方道（東広島本郷忠海線）に凍結防止剤散布装置等を設置し，JR 白市駅からの空港連絡バスの定時性向上につなげた。

さらに，令和 2 年 1 月に，広島空港及び広島県内計 8 か所（広島空港（国内線・国際線），広島バスセンター（2 番ホーム，券売機待合），広島駅新幹線口，中筋駅バス停，福山駅，白市駅）に，空港アクセスバス等の発車時刻や運行状況等を表示するデジタルサイネージを設置した。

今後は，空港アクセスの更なる利便性向上に向けて，「広島空港アクセス対策アクションプログラム」に基づき，トリプルウェイの早期完成やアクセス向上に資する道路の整備，広島空港とダイレクトアクセス可能な拠点の拡充，多様なニーズに対応できる交通モードの確保等を推進する。

また，広島空港県営駐車場においては，平成 28 年 7 月からカーシェアリング（ラウンドトリップ方式）の社会実験を実施し，平成 29 年 4 月からカーシェアリングを本格導入するとともに，平成 29 年 5 月からは同駐車場と県内 17 拠点の間でワンウェイ方式（乗り捨て）のカーシェアリングを導入している。

今後は，駐車場機能及びレンタカー機能の強化のため，ターミナル近隣への新たな立体駐車場の整備や，ワンストップでのサービス提供が可能なレンタカーステーションの新設について空港運営権者により予定されている。

(4) 航空ネットワークの維持・拡充

新型コロナウイルス感染症の収束時期を想定し，広島国際空港（株）や官民で構成される広島空港振興協議会等と連携し，既存路線の早期復便に備え，需要回復に取り組む。

なお，国際線の復便にあたっては，不可欠となる水際対策の強化に向け，広島国際空港（株）や地元関係機関と連携し，検疫体制の強化に向けた環境づくりに努めるとともに，検疫の実施主体である国へ，検査人員確保等の必要な働きかけを行っていく。

(5) 空港の振興

官民一体となって空港の振興策を推進するため、平成6年3月に設立した広島県空港振興協議会の名称を、広島空港振興協議会（会長：広島県商工会議所連合会会頭，構成員：県，広島市，広島国際空港（株），経済団体等）に変更し，就航路線の利用促進などの需要の拡大を図る。

(6) 空港経営改革の導入

広島空港が，本県の経済成長を促す役割を担うとともに，中四国地方の拠点空港として今後も継続的に発展していくため，県は平成29年3月に「広島空港の経営改革に係る県の基本方針」を策定し，広島空港の空港経営改革を推進することとした。

国は，平成31年3月から導入・空港運営権者の選定手続を本格的に開始し，令和3年7月に空港運営権者として選定された広島国際空港（株）による空港運営が開始された。

県の基本方針も反映された空港運営権者の提案「将来ビジョン」を共有し，その実現に向けて連携して取り組むために，空港運営会社である広島国際空港（株）と県は30年間にわたるパートナーシップ協定を締結した。

(7) 令和4年度事業の内容

（単位：千円）

区 分	予 算 額	事 業 内 容
直轄空港建設費等負担金	287,500	広島空港の施設更新
空港関連施設等管理費	8,988	周辺県有地の管理等
空港周辺対策事業	39,225	空港周辺の環境対策等
空港振興事業	137,657	空港運営権者等と連携した，航空ネットワークの拡充及び空港アクセスの利便性向上等
合 計	473,370	

参考 広島空港の定期航空路線の概要（令和4年夏ダイヤの運航計画）

(1) 国内線の現況

(令和4年3月31日現在)

地域	路線	航空会社	便数/日	使用機材	令和元年度 旅客数	令和3年度 旅客数	対前々 年度比	備考
北海道	札幌 (新千歳)	全日本空輸	2	B737-800 (166席)	167,840人	54,281人	32.3%	H27.10.25~ (S61.3.1~)
		日本航空		B737-800 (165席)				H8.8.2~
東北	仙台	IBEXエアラインズ (全日本空輸)	2	CRJ700 (70席)	76,585人	55,542人	72.5%	H21.9.1~ (H4.10.25~)
東京	成田	IBEXエアラインズ (全日本空輸)	2	CRJ700 (70席)	249,857人	32,530人	13.0%	H15.8.1~
		春秋航空日本		B737-800 (189席)				H26.8.1~
	東京 (羽田)	全日本空輸	16	B787-8 (240席) B767-300 (270席, 261席, 252席)	2,035,207人	774,311人	38.0%	S37.10.14~
日本航空		B737-800 (165席) A321 (194席)		H2.7.21~ (S63.7.23~)				
沖縄	那覇	全日本空輸	1	B767 (270席)	135,896人	54,640人	40.2%	S61.4.26~
<定期便計>	5路線	4社	日23便		2,665,385人	971,304人	36.4%	
チャーター便					4,140人	3,359人	81.1%	
<国内線合計>					2,669,525人	974,663人	36.5%	

(2) 国際線の現況

(令和4年3月31日現在)

国・地域	路線	航空会社	便数/週	使用機材	令和元年度 旅客数	令和3年度 旅客数	対前 年度比	備考
韓国	ソウル	エアソウル (アジアナ航空)	運休	A321 (195席)	36,563人	0人	0.0%	H28.10.20~ (H3.6.21~) R2.12.17~運休
中国	大連・北京	中国国際航空 (全日本空輸)	運休	B737-800 (165席)	33,827人	0人	0.0%	H10.2.26~
	上海	中国東方航空 (日本航空)	7	A320 (156席) A321 (175席)	57,773人	0人	0.0%	H8.2.6~ (H23.7.22~成都延伸) H30.3.25~成都延伸 休止
台湾	台北	チャイナエアライン (日本航空)	7	B737-800 (158席)	84,778人	0人	0.0%	H16.6.2~
香港	香港	香港エクスプレス	4	A320 (180席, 188席)	42,264人	0人	0.0%	H27.10.27~
シンガポール	シンガポール	シルクエア (シンガポール航空)	運休	B737-800 NG(162席)	34,378人	0人	0.0%	H29.10.30~ R2.3.27~運休
タイ	バンコク	ノックエア	運休	B737-800 (189席)	5,160人	0人	0.0%	R元.12.18~
<定期便計>	7路線	7社	週18便		294,743人	0人	0.0%	
チャーター便					9,940人	0人	0.0%	
<国際線合計>					304,683人	0人	0.0%	

2 広島ヘリポートの概要

(1) 広島ヘリポートの管理・運営

平成22年10月30日の定期路線の撤退により、小型機専用飛行場として運営していた広島西飛行場を平成24年11月15日付けで廃止、同日付けで広島ヘリポートとして供用開始し、ヘリコプター運航及び利用者の安全確保に必要なサービスを行っている。

なお、広島西飛行場の範囲でヘリポートを供用開始した後、段階的にヘリポート区域を縮小し、平成27年4月から最終形区域での供用を開始した。また、この最終形区域での供用開始に合わせて、指定管理者制度を導入し、「日本空港コンサルタンツ・大成有楽不動産連合体」が指定管理者として管理運営を行っている（令和2年4月1日から令和7年3月31日まで〔5年間〕）。

また、広島ヘリポート管理事務所の老朽化が進んでいたため、旧広島西飛行場ターミナルビルを取得し、建物の改修及び管理事務所の移転を行い、令和元年9月から新管理事務所での業務を開始した。さらに、令和3年4月までに旧管理事務所棟の解体工事と外構工事（柵設置等）が完了した。

広島ヘリポートの概要

設置管理者	広島県		
飛行場の種類	陸上ヘリポート（公共用）		
供用開始日	平成24年11月15日		
施設概要	管理面積	112,939 m ²	
	基本施設	着陸帯	長さ35m, 幅30m
		誘導路	長さ28m, 幅9m
		エプロン	20,574 m ² , スポット14
航空灯火	飛行場灯台, 誘導路灯, 風向灯, 境界灯, 境界誘導路灯		
通信施設	対空通信施設一式		
気象観測施設	風向風速観測装置等		
運用時間	10時間30分（利用時間：8時30分から19時00分まで）		

(2) 令和4年度の事業内容

（単位：千円）

区分	予算額	事業内容
広島ヘリポート管理費	137,408	ヘリポートの管理・運営等
広島ヘリポート整備事業	20,455	エプロン舗装, 維持修繕等
計	157,863	